

日中両国の異なる大学の風貌

医学系研究科博士課程前期生命薬学系専攻一年 栄 勇

私は日本にきたこの二年間に、自分の目で身で感受したことが沢山あったが一番感じしたのは、日本国民の全体的に教育レベルが高いということである。

無論これは、国家進歩と発展の原動力だと思いが日中両国の異なる大学の風貌を比較しながら、愚見を発表させていただく。

大学への入学試験について

中国で大学への受験は、年に一度だけ、毎年七月中旬に行い、何十万人もの進学志願



留学生活の姿：毎日通っている研究棟

者たちは、全国高考委員会で出題した入試問題をいっさいに受けることになっている。それから各大学へ入学できる点数を公布し、受験生が自分の得点と趣味を合わせて、入学願書を書いて出す。そして、出した願書は、全部各省、市の高考委員会に揃えておいて、大学の入学係の人達は、ここに集まって、入学志願を見ながら、条件に入った受験生しか選ばないのである。入試問題は、かなり難しいし、競争も激しいし、合格率も低い。中々厳しい。若し運が悪かったら、四、五年も続けて大学の受験を受ける人も居る。この選考方法の利点としては、A. 全国レベルで自分の実力を確かめられる。B. 全国各地の人材は、一人も漏れず、選べる。C. 各大学には、全国各地からあつまった学生なので、学術上の親子の近親繁殖現象を防止できる。然し多くの青年たちは、大学の門に入られないので、望洋浩嘆しかできない。それに対して、日本の大学の入試は、各大学で自主的に行い、それに大学の数も随分多い。受験生は年に何回もチャンスが有り、多くの青年達の大学の教

中国武漢市生まれ。一九八二年湖北中医学院中薬系を卒業。湖北省中医薬研究院勤務。趣味は音楽と読書。



原爆ドーム前の思考：世界の平和を憧れ

育を受けたい願望を満足させられる。だから、日本の大学生の割合は、中国のより、一段と高い。

学校教育のシステム

中国の大学生は、殆ど大学の寮に住んで、集団生活を送る、スケジュールをきちんと制



中国の最大規模の北京図書館

定し、大変リズムが有る大学生生活である。朝食は無論駄目だし、夜中にぶらぶらしていることも許されない。食事は殆ど学校の食堂で済みます。食事の時間になると、何千人の学生達は、食堂に殺到し、それまで静かだった食堂は、急に賑やかになる。

日本の大学生は、大変自由で、時間的に緊迫感を感じない。もっと驚いたことに授業に出ない人が、少なくないし、遅刻する人も多い。それに恥ずかしげもなく、正々堂々と教室に入る。授業に出ても、上手に居眠りする学生も居る。若し、中国の授業でそんなことがあったら、指名質問されてしまい、恥を掻く。「やっぱり、日本の大学の先生達は優しいなあ」と、私はいつも沁沁感じている。

でも、日本の大学は実験条件が良いので大学生たちは、理論を勉強しながら、実践をやったり、理論と実践は、うまく結合できる。

それに、大部分の大学生は、アルバイトの経験があり、早く社会と接触することができ、卒業したら、慣れた社会環境の中に、就職のため、入っても、全く平気で、仕事が順調にいく。とても、感心している。

大学の先生の地位と待遇

日本の大学の先生は、地位が高いし、待遇も良い。人々に尊敬され、学術活動の主力である。研究室の活動は、殆ど教授の意見を中心に行い、研究室の名付けは、教授先生の芳名で使うことも多い。いろいろな出来事に対して、教授先生が、決裁権をもっている。若し、学部長、学長、会長などの偉い人になりたいならば、先ず教授にならなければいけない。即ち、学術上の地位は、何より根本的である。

中国の大学の先生は、地位と待遇が普通の人と同じで、清貧に安んずる。人々は、お互いに尊敬している。平日、自宅で仕事をし、授業と集会がある日にしか学校にいかない。所謂「十年壁に面じて、破壁を穿る」というタイプが多い。

学歴と実力

日本では、学歴を重視し、しかも小学校から、博士課程まで、いくらか成績がよくても、一つ一つの段階を飛び越えることが、殆ど不可能である。だから、同級生の年は、大体同じくらいである。

中国では、学歴よりは実力を重視し、成績さえ良ければ、少年でも大学生になれる。中国科技大学の少年大学生クラスは、この例である。反対に年を取った人は、大学生、大学院生にもなれる。だから、同級生の年差が大きい。

女子大学生の将来性

日本の大学生の男女の比率は、大体同じなのに、職場を調べたら、男子大卒者は、女子大卒者より圧倒的に多いのである。一体女子大卒者は、何処に消えたのであろう。最大の原因は、結婚したら仕事を辞めて家庭に戻ったそうである。何と惜しいことであらう！

中国の女子大卒者は、結婚のため仕事を辞めると言うことは、とんでもないことだと認め、仕事をするのは、生き甲斐の一つだと思っているのである。夫妻二人で同時に外での仕事の難しさ、辛さ、嬉しさを、しっかり味わってそれで、家で暖かい雰囲気二人の手で作ると言うのは、理想的であらう！